

# やまぐちっ子学力向上だより

第 147 号 R6.5.16

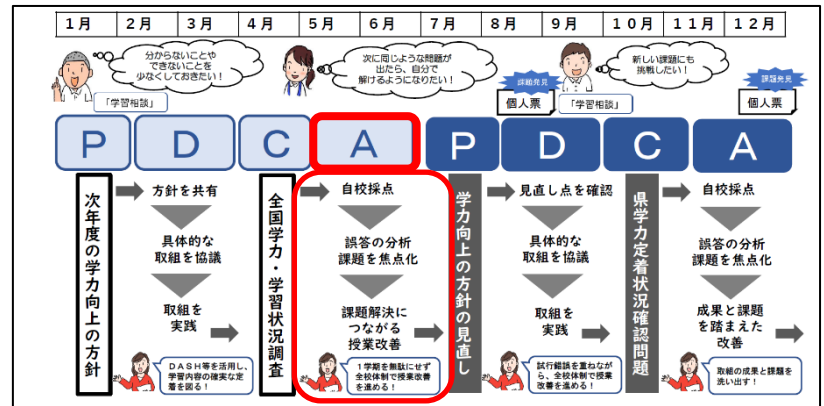
山口県教育庁義務教育課

## PDCAサイクルの「A : Action」の時期です

右の図は、児童生徒の学力向上につながる年間2回の検証改善サイクルを示した図です。今の時期は、全国学力・学習状況調査や4月確認問題実施後の、自校採点及び分析等の時期に当たります。

年2回の「C : Check」を本県が設けているのは、児童生徒の「分からない」ことをそのままにせず「確かな学力」を身に付けることを目的としているからです。

そのためにも、今回の「C : Check」で見えてきた、これまでの成果や課題を全教員で共有し、教員の授業改善や児童生徒の学習改善につながる取組（「A : Action」）を充実させていきましょう。



今は、この時期です

【年間2回のPDCAサイクルのイメージ図】

## 全校体制で「A : Action」の取組を進めていきましょう

「A : Action」の時期には、児童生徒が正答できなかった問題の学び直しが行われますが、学び直しを充実させるためには、どのような取組が考えられるでしょうか。

まずは、優先順位をつけるために、設問別正答率や、観点別正答率、度数（正答数）分布のデータを活用して、「どの設問、どの観点で正答率が低いか」に着目し、分析の対象設問及び観点を絞り込むことが考えられます。

そして、絞り込んだ「課題のみられる問題」だけでなく、「それに関連する問題」にも取り組んでみると、学び直しは一層充実します。なぜなら、関連する問題に取り組むことによって、選択肢問題の解答状況では見えなかった児童生徒のつまづきが見えるようになり、児童生徒の学習内容に対する理解がより深まったりすることにつながるからです。一例として、右に示した令和6年度の全国学力・学習状況調査の小学6年生算数の大問3(2)で出題された問題を使って説明します。

(2) 図1のような円柱があります。

図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。

図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

図1の円柱の展開図はどれですか。  
下の1から4までの中から、最もふさわしいもの1つを選んで、その番号を書きましょう。

この問題が解けるためには、次のことを理解しておく必要があります。

- ①「長方形の横の長さ」は「円柱の底面の円周の長さ」と等しくなること
- ②「円柱の底面の円周の長さ」は、「底面の直径×円周率（3.14）」で表されること

そこで、どの大きさの円についても、円周の直径に対する割合（円周率）が一定であることが理解できているかを見るために、次のような問題に取り組むことが考えられます。

**問題 1** 円周率は、円周の長さ÷  で求められることができます。 の中であてはまる言葉を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 半径の長さ            2 直径の長さ            3 円周の長さ            4 円の面積

【平成 20 年全国学力・学習状況調査 小学校算数 A  7 全国 76.8% 山口県 71.4%】

**問題 2** 円周率を求める式を、下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ×半径の長さ            2 円周の長さ×直径の長さ  
3 円周の長さ÷直径の長さ            4 直径の長さ÷円周の長さ

【平成 30 年全国学力・学習状況調査 小学校算数 A  7 (1) 全国 41.6% 山口県 45.2%】

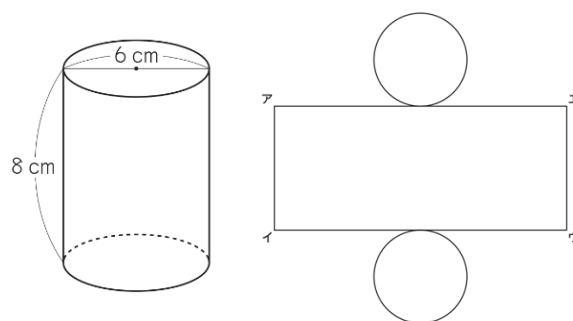
**問題 3** 円の直径の長さを 2 倍にします。このとき、直径の長さを 2 倍にした円の円周の長さは、もとの円の円周の長さの  倍になります。 にあてはまるものを、下の ア から エ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 2            イ 3.14            ウ 4            エ 6.28

【平成 30 年全国学力・学習状況調査 小学校算数 A  7 (2) (一部改変) 全国 55.6% 山口県 48.5%】

また、円柱について、底面の円周の長さと同展開図の側面の辺の長さとが対応していることを理解しているかどうかを見るために、次のような問題に取り組むことも考えられます。

**問題 4** 右のような円柱があります。この円柱の展開図を、右のように側面を長方形にしてかきました。辺アエの長さを求める式と答えを書きましょう。ただし、円周率は 3.14 とします。



【平成 25 年全国学力・学習状況調査 小学校算数 A  7 (2) (一部改変) 全国 66.3% 山口県 67.2%】

つまり、関連する問題として、円周率の意味の理解を基に、直径の長さから円周の長さを、また、逆に円周の長さから直径の長さを求める問題を取り上げたり、立体図形から展開図を、また、逆に展開図から立体図形を捉えて解決する問題を取り上げたりすることが大切です。このような問題に取り組む中で、児童生徒の学習改善や、教員の授業改善につながるヒントが見つかるはずです。また、**問題 1** と **問題 2** を比べて分かるように、同じ趣旨であっても、少し問い方を変えるだけで本当に理解しているかどうかを確認できます。

ぜひ、学び直しの際に、各学校で「課題のみられる問題」と「それに関連する問題」にも取り組み、各校の学力向上の推進にお役立てください。